

支持的基盤のある学級づくりにつながる道徳授業の在り方に関する実践的研究 —総合単元的な道徳学習の実践と支持的基盤形成状況の把握—

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻 2年 平林 香里

1 目的

中学校において多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業を要とする総合単元的な道徳学習を実践し、その効果を検証して、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道徳授業の在り方を明らかにする。

2 実践（対象：A中学校第2学年11名）

(1) 多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業を要とする総合単元的な道徳学習

【表1：2学期の総合単元的な道徳学習の構想】

テーマ	私たちの郷土				
月	9月	10月	11月	12月	
道徳授業 15時間	※自分・相手・第三者、社会的集団といった多様な視点から考え、話し合う活動を重視 ・自分の弱さと戦え ・ネット特権 ・避難所にて ・門掃き	・和樹の夏祭り ・タッチアウト ・行動する建築家坂茂 ・よみがえれ、えりもの森	・さよならホストファミリー ・包む ・海と空—樗野の人々— ・さいちちゃん	・初心 ・樹齢七千年の杉 ・最後のパートナー	
特別活動	SGE、体育祭の取組	生徒会役員選挙	文化祭の振り返り	学祭の振り返り	
総合的な 学習の時間		文化祭の準備	文化祭、郷土料理作り	山の学習（シイタケの菌打ち）	
常時活動	朝・夕の会、班活動、係活動、掃除、1分間スピーチ 等				

(2) 多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業

(多様な視点で考えることのできる発問の工夫)

・視点の取得を意識できる問い ・内面に迫る問い ・発問の精選

(伝え・聴く活動の充実)

・他者との意見交流 ・活動の工夫（ペア・グループ） ・座席形態の工夫



3 まとめ

支持的基盤のある学級づくりのためには、多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業を要とした総合単元的な道徳学習は、有効であることが示唆された。また、多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業としては、視点取得を促進する発問の工夫、考えを伝え・聴く活動の充実を図った学習活動の有効性もうかがえた。

本実践研究をもとに、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道徳授業の一つの方法として、視点取得を促進する道徳学習活動モデルを以下に提示する（図1、2、3、4）。

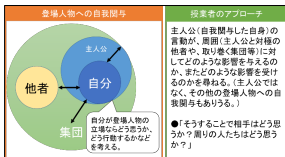


図1 道徳学習活動モデル①

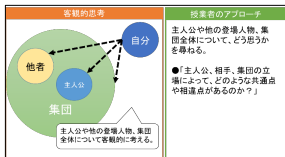


図2 道徳学習活動モデル②

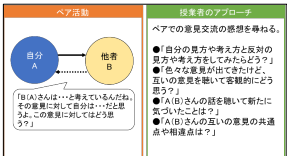


図3 道徳学習活動モデル③

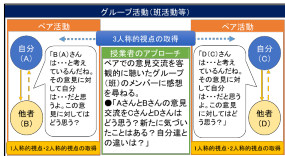


図4 道徳学習活動モデル④